

WE THINGS

GOOD MANNERS DOG TRAINING

はじめに

第一章
犬のしくみ

視覚
聴覚
嗅覚



第一章 犬のしくみ

犬という生き物を前にしたときに感じるのは、「人間との違い」だと思います。「見た目、動き、声」等、様々な違いがありますよね。

学術名で犬は「イエイヌ」という種類に分類され、「カニス・ルプス・ファミリアーリス (Canis lupus familiaris)」という名があるようです。

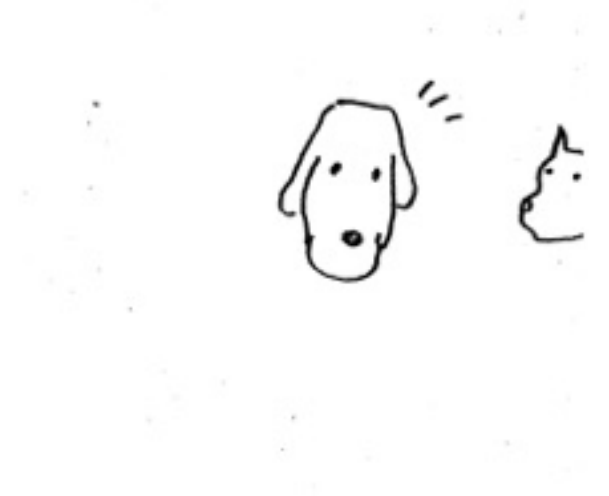
ちなみに、みなさんご存知の、「ヒト」はホモ・サピエンス(Homo sapiens)ですね。言葉の長さも、単語も全然違いました。ここで、もっと掘り下げてみていくと、からだの司令塔と呼ばれる〈脳〉にも違いがある事がみえてきました。

形状や重さが違う事は想像が出来る範囲ですが、どうやら構造は同じで、その割合が犬と人間とでは違うようです。

中でも前頭葉(ぜんとうよう)の割合で、人間が脳全体の数十%に対し、犬は数%で、前頭葉は理性や思考等を司る部分とされていますが、先ほどの数値を見ると人間の方が得意な分野という事が想像できます。

ということから、犬の脳の働きはもっと直感的な本能に基づく分野の方に働くということが考えられます。

このように犬と人間では様々な違いがあるわけですが、特に人と違うところを改めて特徴と併せてみていきましょう。



視覚

目の構造の中には錐状体（すいじょうたい）という組織があり、この錐状体によって様々な色の識別が出来ているようです。

犬にはこの錐状体が人間ほどはないようで、つまり人間と同じ様にカラフルに色を認識できないということが想像できます。

人間は色でそのイメージを膨らませたり楽しんだり様々な影響を受けますが、犬は人間に比べると少ない種類の色の認識をしているのですね。

あとは、静止しているものを細部まで明確に理解することが得意ではないようです。

ただ、それよりも動体視力と暗い場所、立体的に見る能力が（犬種により差はありますが）遥かに人間よりも優れているといわれています。

急に飛び立つ鳥に反射的に反応するのは本能の部分と、この動体視力で人間には到底追いつけない速さで反応していると言う事が思いつきます。

そしてこの優れている部分は獲物を見つけて捉える事もそうですが、犬だって狙われたり、いつ何時そばにある木が倒れてきたり、上から物が落ちてきたりと、自分の身に危険が降り掛かるかもしれないという状況に置かれている為、いち早く危険を察知して逃げるためでもあると言う事も想像できます。

命を守るためにはこちらの方がきっと犬にとって重要なのでしょう。



聴覚

可聴域の違いでいうと人間は20～20,000Hz程に対して犬は40～50,000Hz前後で、取り分け聞き取りやすいのが3,000～12,000Hz辺りのようです。

この数字で見えるように人間と比べると聞き取れる範囲の広さと、割と高い領域の音が犬には聞き取りやすいという事が分かります。

また、どの方向、どのくらいの距離から聞こえてくるかを判断する事にも長けているそうです。犬を観察していると耳を根元からアンテナのようにピクピクと動かしていたり、首を傾げて何かを考えているような仕草は、より正確に音を捉えて、そういった情報を判断しようとしているのですね。

聞き取りやすい音域の高い音について考えてみると、獲物となる小動物の鳴き声が思い浮かびます。

小動物は、短く高い音で鳴いていますね。そういった鳴き声に素早く反応するためにもこの領域の音がより聞き取りやすくなっていると判断できます。

あとは何か身の危険に繋がりそうな音もそうですね。

余談ですが、「視覚」で述べたように、じっとしているものを判別するのもそんなに得意ではないようなので、人間の長い言葉よりもいわゆるボディランゲージは判断しやすいという事も想像できます。



嗅覚

犬の感覚器の中で最も優れている部分です。

そんな優れた能力を活かして人間のサポートをしてくれる犬たちもいますよね。よく聞くのは警察犬や麻薬探知犬、めずらしいものでいうと考古学犬というお仕事を持っている犬もいるそうです。

そんな犬の嗅覚は、嗅ぐ対象物や犬種によって変わるそうですが、人間の数千倍～1億倍とも言われていて、その匂いだけで相手の性別やサイズ、その時々々の体調や気分に至るまで様々な情報がわかると言われています。

お散歩中にするマーキングという行動について「縄張りを作る・守るための行動」というイメージが強いかと思いますが実はこの行動は、先述した優れた嗅覚ならではで、お互いの情報交換の機能もしているようです。

人間で言うSNSに書き込んだり、それを読んでいるイメージでしょうか。

「初めまして！僕は〇〇、よろしくね！
(チョロチョロ)」

「ん？初めて嗅ぐ匂いだなあ～、どんな子だろう？どれどれ…(クンクン)」

「なるほど、〇〇君というんだ！〇〇君、よろしくね！わたしは△△っていうの！（チョロチョロ）」

と、これは犬に直接聞いたわけでは無くあくまで想像ですので、もっと複雑なやり取りが行われているかもしれませんが、犬同士の会話みたいなものなのですね。

